

令和7年度官民協働事業レビューにおける意見・評価

事業番号:8月30日(土)⑤-2

担当部局・担当課名:厚生部高齢福祉課

事業名	元気高齢者による介護助手マッチング支援事業	評価結果	一部改善
-----	-----------------------	------	------

事業レビューにおいて発言のあった主な意見

【委員の意見】

- ・「介護助手」というネーミングについて、担い手(高齢者)側の意欲をくすぐる、生きがいにつながるような魅力的なネーミングにするなど、働く側・事業所側の意識を変える工夫が必要ではないか。
- ・受入れ側の介護事業所の掘り起こしにつながるよう、現場である事業側への啓蒙活動や広報活動に工夫の余地があるのではないか。
- ・導入した事業所のほとんどが「介護助手を利用して助かった」と評価していることからも、潜在的ニーズは高いと考えられる。導入に至る最初のハードルをどうクリアするかがポイントなのではないか。

県民評価者の評価シートによる評価

県民評価者総数	21
行政の関与 不要	役割分担 見直し
0	0
抜本的改善	一部改善
	現行どおり ・拡充
	5 (現行2、拡充3)

県民評価者の主なコメント	評価結果と 同様評価	【一部改善】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・介護助手のネーミングを変えれば、事業所側も働きたい側も参入しやすいのではないか。 ・導入のハードルを下げるため、試行的に実施することも認めてはどうか。 ・「高齢者の介護助手を取り入れて良かった」と思う施設の人に、他の施設の人に対してこの制度の良さを話してもらえばよいのではないか。 ・行政が主体となって、介護助手候補者に業務に係る研修を行えば、はじめて介護助手を利用しようとする事業所も受け入れやすくなるのではないか。 ・事業者側の人件費負担を軽減する他の施策(労働局等からの助成、県や市町村高齢福祉事業での助成等)の紹介も合わせて行うと、より雇用に前向きになれると思う。 	
上記以外		【現行どおり・拡充】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場での貢献や本人のやりがい、ウェルビーイングの向上を目的とし、事業内容を見直して事業費を拡充すべきではないか。 ・要介護者が増える中、高齢者の求職もこれから増加が予想されるので、必要な事業だと思う。 	
		【抜本的改善】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・現在は高齢者の生きがいづくりの視点での事業の組立てになっているが、受入事業所における担い手確保の視点での事業の組立てにした方が、ニーズを満たしやすくなるのではないか。 	

【参考】委員による評価

委員総数	4
行政の関与 不要	役割分担 見直し
0	0
抜本的改善	一部改善
	現行どおり ・拡充
	3 (現行0、拡充3)